

# 第25期考古学セミナー（2023年度）

—山形県の指定文化財と出土遺跡—

## 第1回講座

講義②

### 縄文時代の指定文化財と関連遺跡

(公財)山形県埋蔵文化財センター

小林 圭一 氏

令和5年9月24日（日）

会場 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室



## (山形県) 縄文時代の指定文化財と関連遺跡

小林圭一

### 1. 文化財保護の経緯

- ・ 1919年史蹟名勝天然記念物保存法施行→各府県に史蹟名勝天然記念物調査会を設置  
山形県の史蹟担当者：五十嵐清蔵・阿部正己（1882-1946年）
- ・ 国史跡の指定（内務省史蹟名勝天然記念物調査会：考査員柴田常恵）
- ・ 国宝保存法（1929年制定）、重要美術品等ノ保存ニ関スル法律（1933年制定）
- ・ 1928年4月山形県郷土研究会発足（会長三浦新七）→山形県郷土研究叢書（11輯）・郷土研究資料篇（2輯）発刊-1930~1942年-
- ・ 1932年4月城輪柵跡国史蹟指定
- ・ 1950年文化財保護法施行（上記3法は廃止）：1949年1月法隆寺金堂壁画焼損が契機
- ・ 有形文化財：建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書、考古資料など
- ・ 有形文化財のうち重要なものを「重要文化財」に指定
- ・ 重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいなき国民の宝たるものを「国宝」に指定→縄文時代では国内6件
- ・ 記念物：史跡・名勝・天然記念物など→「土地に記念された文化財」
- ・ 史跡：貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡など
- ・ 史跡のうち特に重要なものを「特別史跡」→縄文時代では国内4件
- ・ 各県に文化財保護審議会を組織して指定に関する審議
- ・ 1948年11月山形県文化財保護協会発足（理事川崎浩良）→機関誌『羽陽文化』発刊

### 2. 山形県内の指定文化財

- ・ **国宝**  
西ノ前遺跡出土土偶（1998年国重要文化財→2012年国宝）：附土偶残欠47点：舟形町・中期前葉～中葉（大木7b～8a式期）1992年発掘調査→1994年報告書刊行
- ・ **国重要文化財**  
釜淵遺跡結髪土偶（1965年指定）：真室川町・晩期末葉（大洞A2～A'式期）1915年発見  
押出遺跡出土品（1996年1,057点指定、2020年458点・附98点追加指定）：高島町・前期後葉（大木4式期）1985～1987・2011・2012・2015年発掘調査→1990（実際は2006）  
・ 2014・2017年報告書刊行  
水木田遺跡出土品（2011年330点指定-土器88点・土製品48点・石器及び石製品194点）  
：最上町・中期前葉主体（大木7a～8a式期）1978年発掘調査→1984年報告書刊行
- ・ **県指定文化財**  
白須賀遺跡注口土器（2004年指定）：大蔵村・中期中葉（大木8b式期）1954年発掘  
宮の前遺跡人体装飾付土器（2012年指定）：村山市・後期後葉（瘤付土器第II段階）1993  
年発掘調査→1995年報告書刊行  
岩手県内出土環状注口土器（1958年指定）：岩手県一戸町付近・後期後葉（瘤付土器第  
III段階）-松森文庫『弄石餘談』1990年県指定文化財（典籍）-

玉川遺跡出土硬玉類・硬玉製勾玉類（1953年1960年指定）：合計149点：鶴岡市・晩期

### 3. 山形県内の指定史跡

#### ・国史跡

一ノ坂遺跡（1997年指定）：米沢市・前期初頭～前葉（上川名Ⅱ－大木1式の間中型式期）1989～1995年発掘調査→1996年報告書刊行

#### ・県史跡

吹浦石器時代遺跡（1953年指定）：遊佐町・前期末葉～中期初頭（大木5b～大木7a式－大木6式主体－）1951～1953年発掘調査→1955年報告書刊行

角二山石器時代遺跡（1972年指定）：大石田町・旧石器時代末期・前期末葉（大木6式期）1970年発掘調査

玉川石器時代遺跡（1972年指定）：鶴岡市・中期・晩期全般（大洞B～A'式期）1952・1955・1969・1970年発掘調査→1973年報告書刊行

### 4. 縄文時代の年代

これまで縄文時代は12,000年前～2,300年前頃と推定されてきたが、放射性炭素年代の精度が大幅に向上し、近年では大別フレームの年代表記が、以下のように修正されている（小林謙一2019）。

草創期	15,860－11,345年前	cal BP（存続期間4,515年）
早期	11,345－7,050年前	cal BP（存続期間4,295年）
前期	7,050－5,415年前	cal BP（存続期間1,635年）
中期	5,415－4,490年前	cal BP（存続期間 925年）
後期	4,490－3,220年前	cal BP（存続期間1,270年）
晩期	3,220－2,385年前	cal BP（存続期間 835年）

**放射性炭素年代測定法について** 放射性炭素年代測定法は、1950年代にアメリカのシカゴ大学のウィラード・リビー（1960年ノーベル化学賞）によって開発・実用化された。放射性同位体で炭素14（<sup>14</sup>C）の存在比率がほぼ一定であるが、死後新しい炭素の補給が止まり、存在比率が下がり始めることから、この性質と炭素14の半減期（5,730年または5,568年）を利用して、試料中の炭素同位体12/14比から年代を推定する。しかし炭素14の生成量は地球磁場や太陽活動の影響を受けるため、大気中の濃度は年ごとに変化しており、北半球と南半球でも大気中の濃度が異なっている。そのため計測結果には誤差が生じており、年縞堆積物や年輪年代により年代の較正が必要となり、この較正年代が一般化している。なお年代値はBP（Before PresentまたはBefore Physics）で表記されるが、大気圏核実験による放射線の影響をあまり受けていない西暦1950年を起点として何年前と表記され、較正曲線を用いて較正された年代値には、calibrated（較正済み）を意味する「cal BP」と表記される。

#### 参考文献

小林謙一 2019 『縄文時代の実年代講座』 同成社

山形県 1969 『山形県史 資料11篇 考古資料』

山形県教育委員会 2002 『山形県の文化財』（山形県文化財保護協会編）

表1 山内清男氏による縄文土器型式編年表（山内 1937）一部改変

縄文土器型式の大別と細別

	渡島	陸奥	陸前	関東	信濃	東海	畿内	吉備	九州
早期	住吉	(+)	槻木 1 " 2	三戸・田戸下 子母口・田戸上 茅山	曾根? ×  (+)	ひじ山  粕畑		黒島 ×	戦場ヶ谷
前期	石川野 ×  (+)	円筒土器 下層式 (4 型式以上)	室浜 大木 1 " 2a,b " 3-5 " 6	蓮田式 花積下 関山 黒浜 諸磯 a,b 十三坊台	(+) (+) (+) 踊場	銚ノ木 ×	国府北白川 1 大蔵山	磯ノ森 里木 1	轟?
中期	(+) (+)	円筒上 a " b (+) (+)	大木 7a " 7b " 8a,b " 9,10	五領台 阿玉台・勝坂 加曾利 E " (新)	(+) (+) (+) (+)			里木 2	曾畑 阿高 出水 }?
後期	青柳町 ×  (+) (+)	(+) (+) (+)	(+) (+) (+)	堀之内 加曾利 B " 安行 1,2	(+) (+) (+) (+)	西尾 ×	北白川 2 ×	津雲上層	御手洗 西平
晚期	(+)	亀ヶ岡式 (+) (+) (+) (+)	大洞 B " B-C " C 1,2 " A,A'	安行 2-3 " 3	(+) (+) (+) 佐野 ×	吉胡 × " ×	宮滝 × 日下 × 竹ノ内 × 宮滝 ×	津雲下層	御領

註記 1. この表は仮製のものであって、後日訂正増補する筈です。  
 2. (+) 印は相当する式があるが型式の名が付いて居ないもの。  
 3. (×) 印は型式名でなく、他地方の特定の型式と關聯する土器を出した遺跡名。

表2 高島町洞窟遺跡群の調査歴一覧（1980年代まで）

調査年月	調査遺跡	調査主体	調査参加者	文献
1955年 10月	日向洞窟（第一次） 第Ⅰ・Ⅱ洞内・Ⅲ岩陰	日向洞窟遺跡発掘調査団	柏倉亮吉 ほか	県史 / 町史
1957年 7月	観音岩岩陰 第一洞	高島遺跡学術調査団	柏倉亮吉・加藤 稔・赤塚長一郎 ほか	町史
1957年 7月	尼子岩陰（第一次） 第Ⅱ岩陰ほか	高島遺跡学術調査団	柏倉亮吉・加藤 稔・赤塚長一郎 ほか	県史 / 町史
1957年 8月	日向洞窟（第二次） 第Ⅰ洞内	高島遺跡学術調査団	柏倉亮吉・加藤 稔・赤塚長一郎・直良信夫 ほか	県史 / 町史 / 直良 1965
1958年 8月	日向洞窟（第三次） 第Ⅰ洞前・Ⅳ岩陰前	東京大学・山形大学	山内清男・鈴木 尚・渡辺 仁・柏倉亮吉・加藤 稔・川崎利夫 ほか	県史 / 町史
1958年 9月	尼子岩陰（第二次） 第Ⅱ岩陰ほか	高島町文化財保護会	加藤 稔 ほか	県史 / 町史
1960年 7~8月	神立沢洞窟	山形県総合学術調査会	柏倉亮吉・加藤 稔・相田俊雄 ほか	町史
1961年 5月	火箱岩洞窟（第一次） 上洞・下洞入口付近	山形県総合学術調査会	柏倉亮吉・加藤 稔 ほか	県史 / 柏倉・加藤 1967
1961年 8月	一の沢洞窟 Ⅰ岩陰	高島町教育委員会	加藤 稔・佐藤禎宏・宇野修平 ほか	加藤 1967
1962年 7月	火箱岩洞窟（第二次） 下洞内	山形県総合学術調査会	柏倉亮吉・加藤 稔 ほか	県史 / 柏倉・加藤 1967
1963年 8月	火箱岩洞窟（第三次） 下洞内・洞外岩陰	日本考古学協会洞穴遺跡 調査特別委員会	柏倉亮吉・加藤 稔 ほか	県史 / 柏倉・加藤 1967
1970年 11月	日向洞窟（第四次） 第Ⅰ洞前	山形県立博物館	佐々木洋治・佐藤達夫・岡本東三・川崎義雄	佐々木 1973・1975
1975年 8月	大立洞窟（第一次）	山形県立博物館	佐々木洋治・戸田哲也・安斎正人・関野哲夫・芳賀英一・佐藤義信 ほか	佐々木・戸田編 1976
1976年 8月	大立洞窟（第二次）	山形県立博物館	佐々木洋治・戸田哲也・西川博孝・関野哲夫・田村 隆・芳賀英一・佐藤義信 ほか	佐々木・戸田編 1977
1977年 7~8月	大立洞窟（第三次）	山形県立博物館	佐々木洋治・戸田哲也・安斎正人・西川博孝・関野哲夫・田村 隆・芳賀英一・佐藤義信 ほか	佐々木・佐藤編 1978
1987年 10~11月	日向洞窟西地区（第一次）	高島町教育委員会	井田秀和・高橋吉博 ほか	佐川・鈴木編 2006
1988年 5~9月	日向洞窟西地区（第二次）	高島町教育委員会	井田秀和・高橋吉博 ほか	佐川・鈴木編 2006
1989年 6月	日向洞窟西地区（第三次）	高島町教育委員会	井田秀和・高橋吉博 ほか	佐川・鈴木編 2006

\*ムジナ沢岩陰：1955年頃 砕採石工事で発見、調査の詳細不明  
 \*一の沢岩陰T地点：1961～1970年頃まで 佐々木洋治氏が断続的に採集、詳細不明

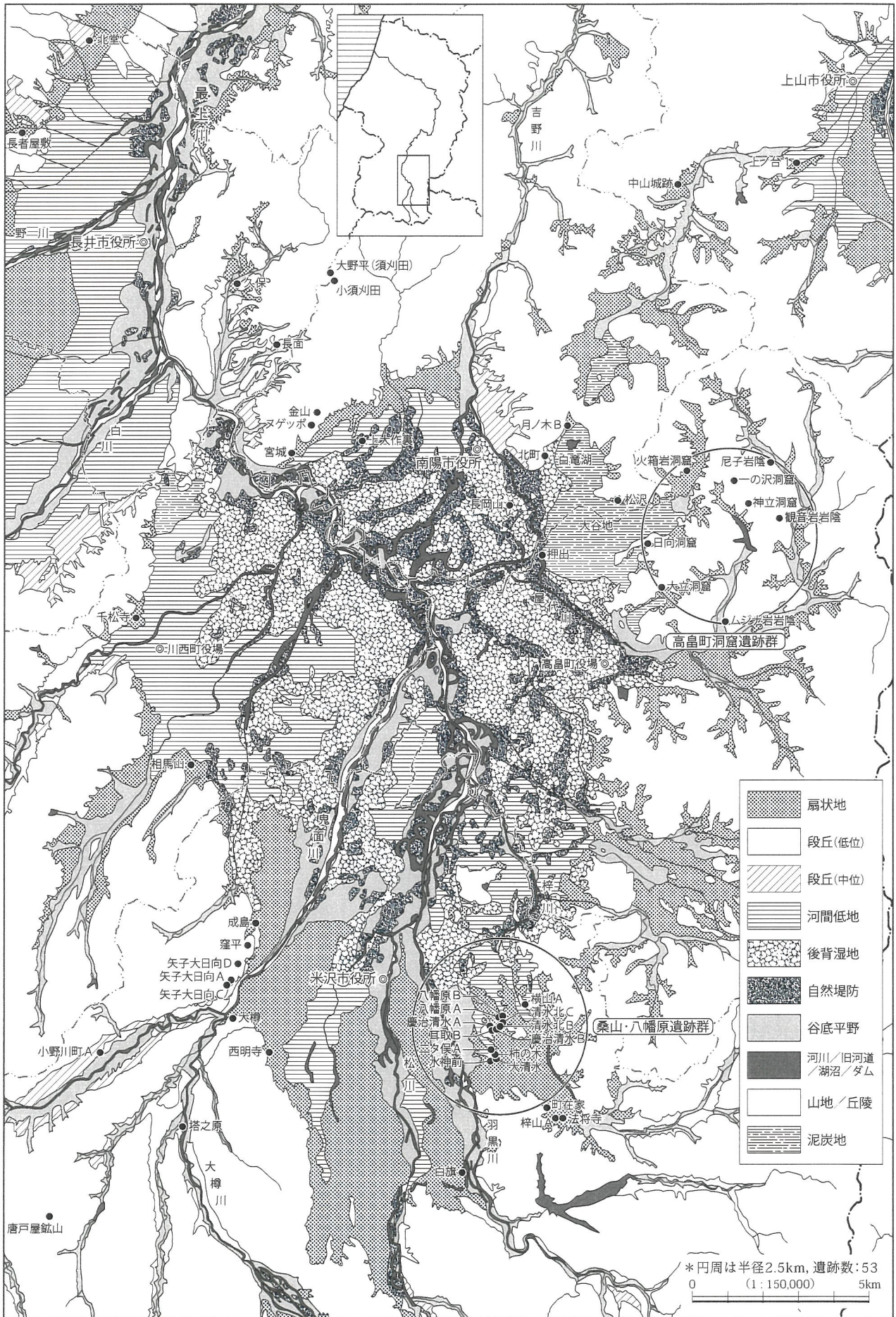


図1 米沢盆地の地形分類と縄文時代草創期・早期の遺跡分布 (1/150,000)

### 山形県の縄文時代の指定文化財と関連遺跡



国重要文化財  
釜淵遺跡出土の「結髪土偶」

小林圭一  
(山形県埋蔵文化財センター)

2023年9月24日

国宝  
西ノ前遺跡出土の「縄文の女神」

1

### 文化財保護の経緯

- 1919年**史蹟名勝天然記念物保存法**施行  
記念物保護の取り組み開始  
各県に**史蹟名勝記念物調査会**を組織→調査員阿部正己  
史跡の指定に着手→1932年4月城輪柵跡が国史蹟指定  
1928年4月山形県郷土研究会発足(会長三浦新七)
- 国宝保存法**(1929年制定)  
**重要美術品等ノ保存ニ関スル法律**(1933年制定)
- 1950年**文化財保護法**施行(法隆寺金堂の火災)  
有形文化財:重要文化財の指定(考古資料)→国宝  
記念物:史跡の指定→特別史跡  
各県に**文化財保護審議会**を組織
- 1951年10月山形県文化財保護条例制定
- 1948年11月山形県文化財保護協会発足(理事川崎浩良)

2



縄文ビーナス  
仮面土偶  
合掌土偶  
中室土偶  
火桶土器

縄文時代の国宝

3

### 山形県内の縄文時代の国・県指定の文化財

- 国宝**  
西ノ前遺跡出土土偶:中期中葉
- 国重要文化財**  
釜淵遺跡結髪土偶(真室川町):晩期末葉  
押出遺跡出土品(高島町):前期後葉  
水木田遺跡出土品(最上町):中期前葉~中葉
- 県指定文化財**  
白須賀遺跡注口土器(大蔵村):中期中葉  
宮の前遺跡人体裝飾付土器(村山市):後期後葉  
岩手県内出土環状注口土器:後期後葉  
玉川遺跡硬玉製玉類(鶴岡市):晩期

4

### 山形県内の縄文時代の国・県指定の史跡

- 国史跡: 6 遺跡**  
日向洞窟・大立洞窟・一の沢洞窟・火箱岩洞窟(高島町):縄文草創期  
一ノ坂遺跡(米沢市):縄文前期  
小山崎遺跡(遊佐町):縄文前期~晩期(後期主体)
- 県史跡: 3 遺跡**  
吹浦遺跡(遊佐町):縄文前期末~中期初頭  
角二山遺跡(大石田町):縄文前期末  
玉川遺跡(鶴岡市):縄文中期・晩期→**W指定**

5

### 縄文時代の年代

1950年を起点に換算

- 草創期: 15,860-11,345年前(4,515年間)
- 早期: 11,345-7,050年前(4,295年間)
- 前期: 7,050-5,415年前(1,480年間)
- 中期: 5,415-4,490年前(925年間)**
- 後期: 4,490-3,220年前(1,270年間)
- 晩期: 3,220-2,385年前(835年間)

縄文時代: 13,320年間(前期~晩期: 4,510年間)

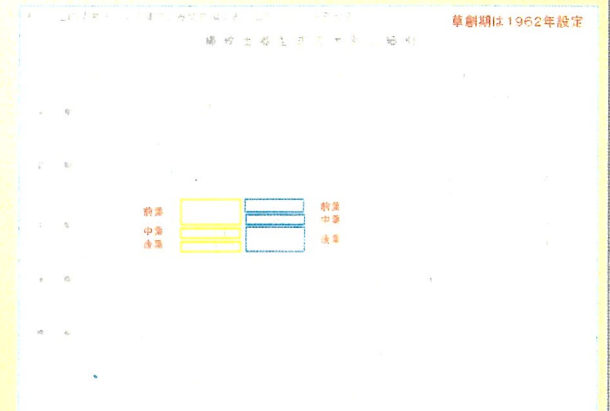
6

## 放射性炭素年代法について

- 放射性同位体である炭素14 ( $^{14}\text{C}$ ) → ベータ線を出しながら5,730年 (リピーは5,570年) 経った時点で半減 (11,460年で1/4) → 現在の残存量を精密に測定することで試料の年代を割り出す (5万年前まで測定可能)。
- 正確な年代を求めるための前提
  - $^{14}\text{C}$ の量が全世界の大気で均一である → 北半球と南半球で差異。
  - 植物の種類によって $^{14}\text{C}$ を取り込む割合に差がない。
  - $^{14}\text{C}$ の半減期が正確に見積もられていること → 160年間差
  - 大気中の $^{14}\text{C}$ の量 (濃度) が時代によらず一定であること → **放射線の強さは変動。**

7

## 山内清男氏による縄文土器の編年表 (1937年発表)



8



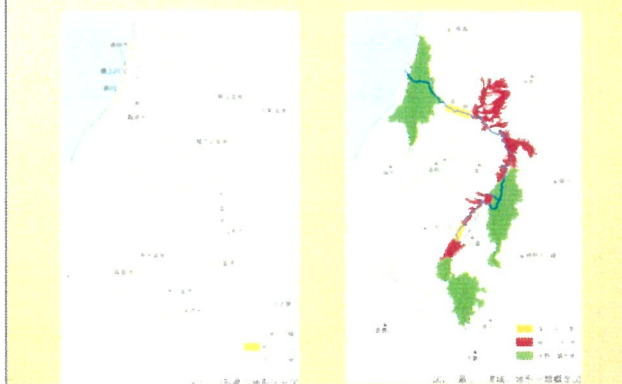
9

## 山形県内の縄文遺跡の推移 (2010年3月現在)

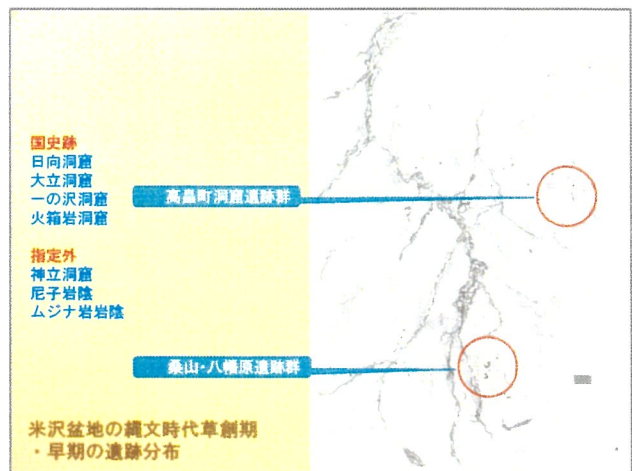
- 山形県内登録遺跡数 : 5,103遺跡
- 山形県内の縄文遺跡数 : 2,295遺跡
  - 草創期 : 10遺跡程度
  - 早期 : 100遺跡程度
  - 前期 : 171遺跡
  - 中期 : 1,120遺跡 (648遺跡)**
  - 後期 : 449遺跡
  - 晩期 : 477遺跡
- 中期に遺跡数のピークがある。
- 細かな型式でみると変動の幅が著しい。

10

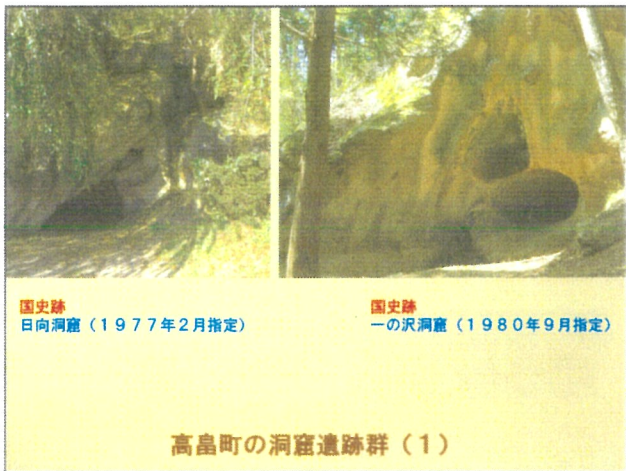
## 山形県の地形区分図・最上川流域の地形分類概念図



11



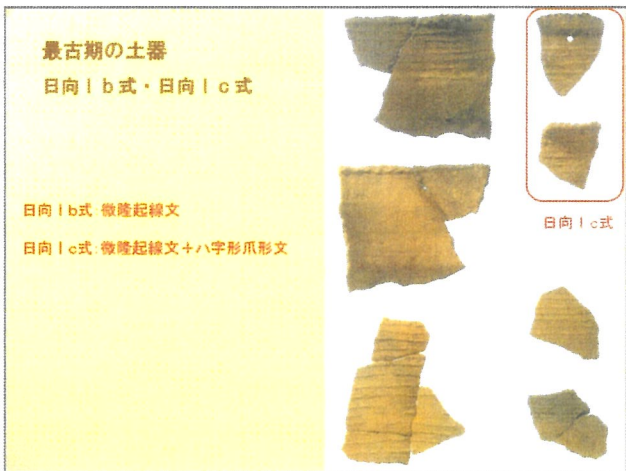
12



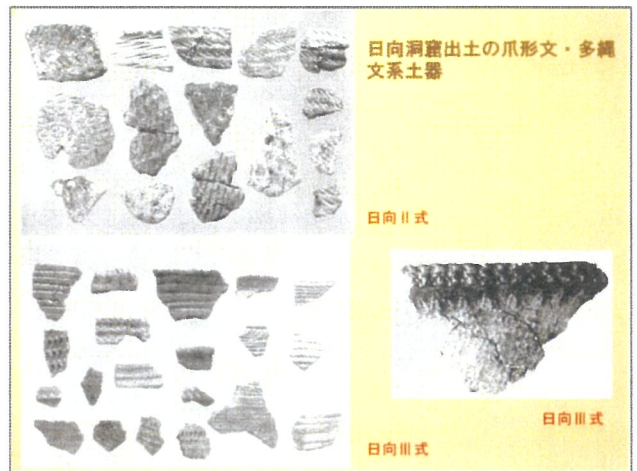
13



14



15



16



17

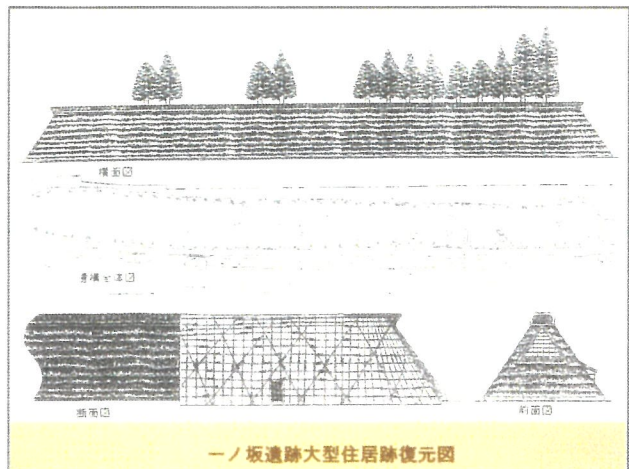


18



米沢市一ノ坂遺跡の大型住居跡（縄文前期初頭）1997年国史跡

19



一ノ坂遺跡大型住居跡復元図

20



山形県内で検出された  
縄文時代前期初頭～中葉の大型住居跡

米沢市榎平遺跡 HYS住居跡  
山形市坂ノ上遺跡 ST21住居跡  
米沢市小林遺跡・地点 2号住居跡  
中村町桑原遺跡 73号住居跡

21



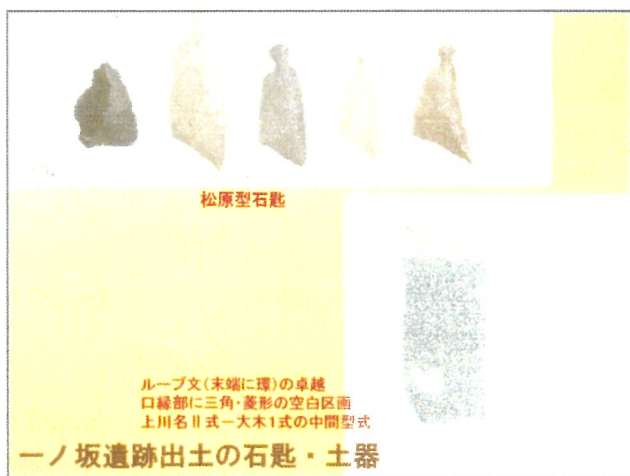
高島町日向洞窟 米沢市一ノ坂遺跡

両端が三角形で一端は穂先の如く尖る

りょうせんあいくち

両尖七首  
(縄文前期初頭～前葉)

22

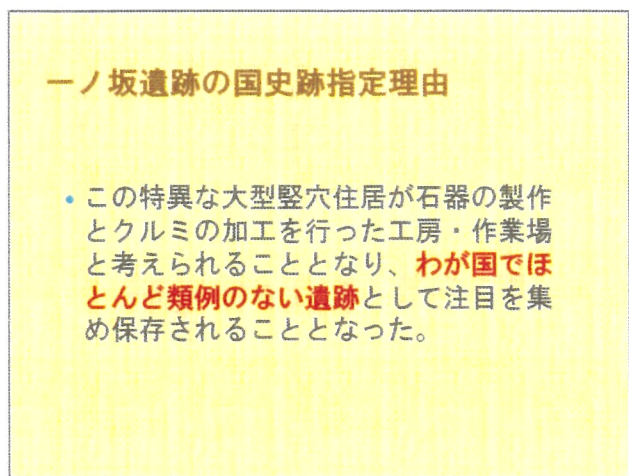


松原型石匙

ループ文(末端に環)の卓越  
口縁部に三角・菱形の空白区画  
上川名Ⅱ式-大木Ⅰ式の中間型式

一ノ坂遺跡出土の石匙・土器

23



一ノ坂遺跡の国史跡指定理由

- この特異な大型竪穴住居が石器の製作とクルミの加工を行った工房・作業場と考えられることとなり、**わが国でほとんど類例のない遺跡**として注目を集め保存されることとなった。

24



25



26



27



28



29




30

**前期末葉の集落構成**  
**遊佐町 吹浦遺跡**

1983～86年調査 国道7号線工事に伴う

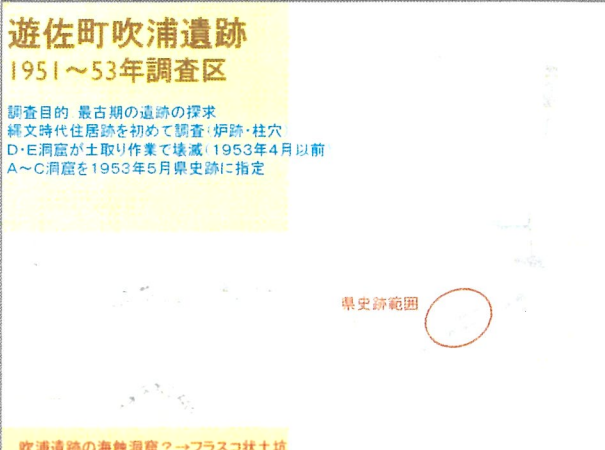
竪穴住居跡 48棟(13ヶ所の住居群)  
土坑 334基(フラスコ状・袋状土坑 173基)



31

**遊佐町吹浦遺跡**  
**1951～53年調査区**

調査目的 最古期の遺跡の探求  
縄文時代住居跡を初めて調査・炉跡・柱穴  
D・E洞窟が土取り作業で壊滅(1953年4月以前)  
A～C洞窟を1953年5月県史跡に指定



吹浦遺跡の海蝕洞窟?→フラスコ状土坑

32

**遊佐町吹浦遺跡 (縄文前期末葉)**



吹浦遺跡県史跡地点現況  
吹浦遺跡遠景(鳥海大橋下から)

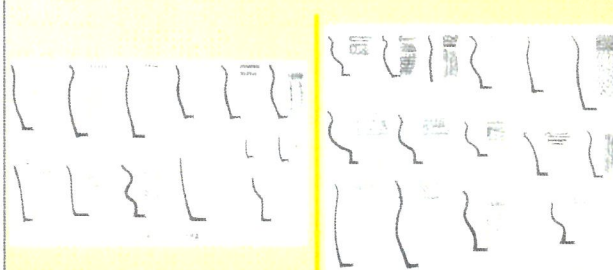
33

**吹浦遺跡出土の球胴形土器**



「吹浦式」の誤ったメッセージ  
大木6式3期  
致道博物館所蔵

34



古段階(B地区出土土器) 中段階(A地区出土土器)

遺跡出土土器総体としての「吹浦式」

**吹浦遺跡出土土器 (1951～53年調査)**

35

さいとうぼやし  
**遊佐町柴燈林遺跡出土の火焰土器**



縄文中期中葉(鳥高1式)～大木8a式に並行  
新潟県の中越地方～中越地方(信濃川流域)に分布の中心  
柴燈林遺跡は移入された最北の出土例



突起は4単位

36

**1972年県史跡**  
**大石田町角二山遺跡（縄文前期末葉大木6式）**

1971年、東北高等技術専門学校の建設に伴い、緊急発掘調査が行われ、重要な遺跡であることが明らかになった。

露土層のクロホク土は60cmの厚さで、ここに、**縄文前期末の大木6式期の竪穴住居跡6棟やフラスコ状土坑などが検出された。**そのうち2棟のは居跡が復元されており、その下層にある沖掛浮石層直下の粘土層中から旧石器時代の硬石石器群が発見された。また、石器の製作にかかわる岩石を中心に硬石刃をはじめ尖頭器・飛塵型彫刻の形石器・撿器・舟底型硬石刃杖などが、600点をこえる旧石器が出土した。

さらにその20cm下層より石刃が出土し、**三つの文化層が確認されている。**



37

**山形県内の縄文時代中期の主要遺跡**

- 遺跡数の大幅な増加と立地の拡大、大規模遺跡の形成は大木7b式以降に顕在化。
- 中期前葉（大木7a・7b式）**  
 庄内：北陸の影響大。  
 最上：円筒上層式との関連。  
 村山：大木式の主体的分布域。  
 置賜：北陸・関東との関連。
- 中期中葉（大木8a・8b式）**  
 遺跡数がピークを迎える。  
 県内一円が大木式主体的分布圏（表向きは地域差が解消?）
- 中期後葉（大木9・10式）**  
 遺跡数はやや減少。  
 円形を基調とした竪穴住居（複式炉の盛行）  
 大木10式で廃絶された遺跡多数。



38



縄文中期前・中葉（半径5km）

縄文中期後葉

39



大木7b式主体（大木8a式を含む）2011年国指定重要文化財  
**最上町水木田遺跡出土の深鉢形土器**

40

**水木田遺跡の重要文化財指定理由**

- 本件を特徴づけるのは、東北地方南部から中部に分布する、縄文時代中期の大木(だいき)式土器を主体とした縄文土器の一群である。胴長の深鉢形で頸部から口縁部にかけて大きく広がる大形の優品が多く、遺存状態も極めて良い。口縁部に四単位の扇形突起が付けられた一群を主体とし、突起が渦巻き文を伴って立体的に発達した土器を含む。また一部の土器には関東地方の五領ヶ台式や、東北北部の円筒上層式土器の影響が窺える。これらは東北地方における縄文時代中期の土器の様相と、隣接する他の土器型式との関係を良く示している。
- 土製品には山形県西ノ前遺跡出土品と類似した土偶が多数含まれ、この地域の土偶型式のあり方を良く示す。石器・石製品は、石徹・石(いし)匙(さじ)などの剥片石器、磨(すり)石(いし)、凹(くぼみ)石(いし)などの硬石器が主体で、狩猟や堅果類の加工など、当時の生業を知る資料として重要である。
- これら土器・土製品、石器・石製品一括は、東北地方における縄文中期文化の様相を知る上で貴重な資料であり、その学術的価値は高い。

41



新庄市中川原C遺跡出土の土偶

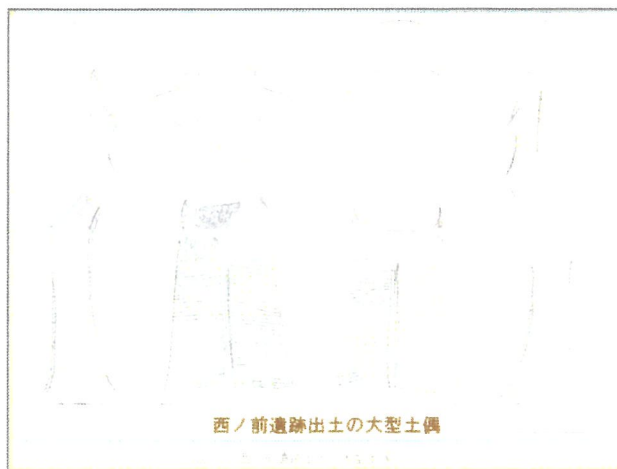
西ノ前型土偶 有脚立像で長脚・出尻形を特徴  
 1998年国指定重要文化財  
 2012年国宝

42



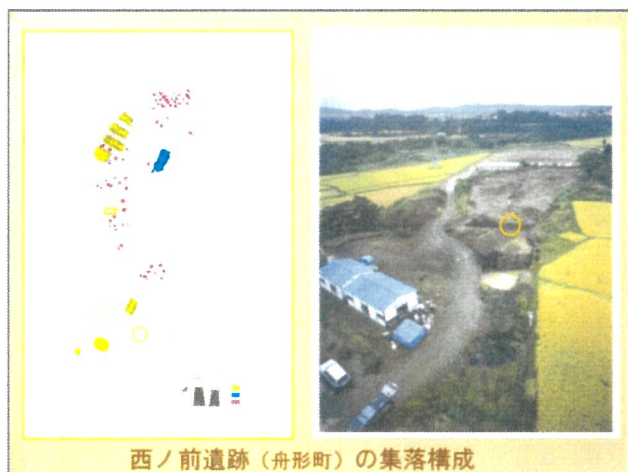
西ノ前遺跡出土の大型土偶（修復前）

43



西ノ前遺跡出土の大型土偶

44



西ノ前遺跡（舟形町）の集落構成

45



西ノ前遺跡の調査状況

SX261（灰状の落ち込み）遺物出土状況

ST9c（竪穴住居跡）調査状況

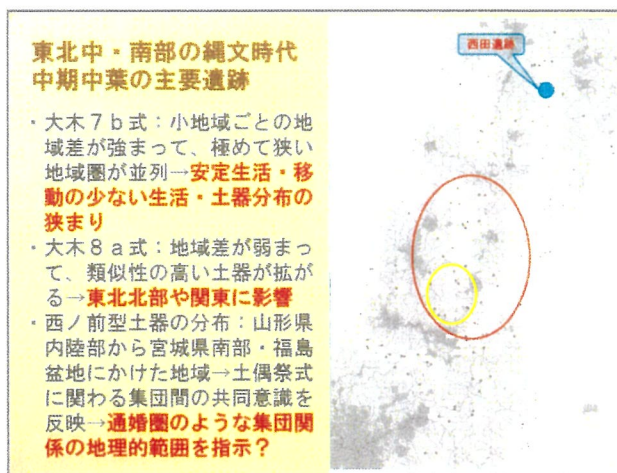
46



土偶復元前の状況

西ノ前遺跡の土偶出土状況

47



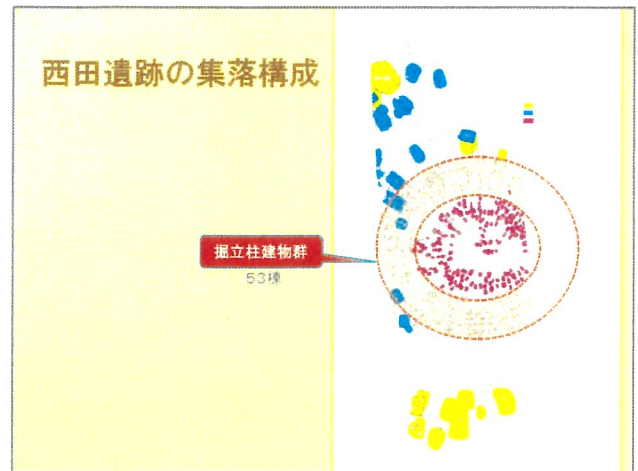
東北中・南部の縄文時代  
中期中葉の主要遺跡

- ・大木7b式：小地域ごとの地域差が強まって、極めて狭い地域圏が並列→安定生活・移動の少ない生活・土器分布の狭まり
- ・大木8a式：地域差が弱まって、類似性の高い土器が拡がる→東北北部や関東に影響
- ・西ノ前型土器の分布：山形県内陸部から宮城県南部・福島盆地にかけての地域→土偶祭式に関わる集団間の共同意識を反映→通婚圏のような集団関係の地理的範囲を指示？

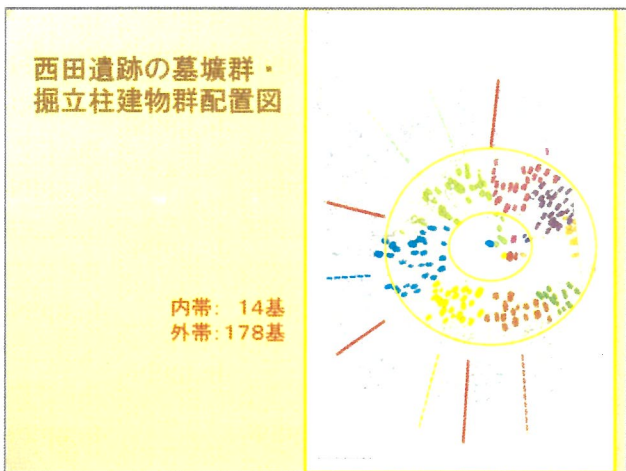
48



49



50



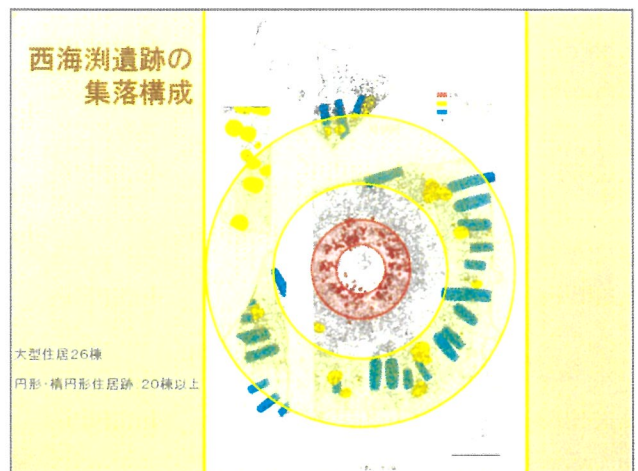
51



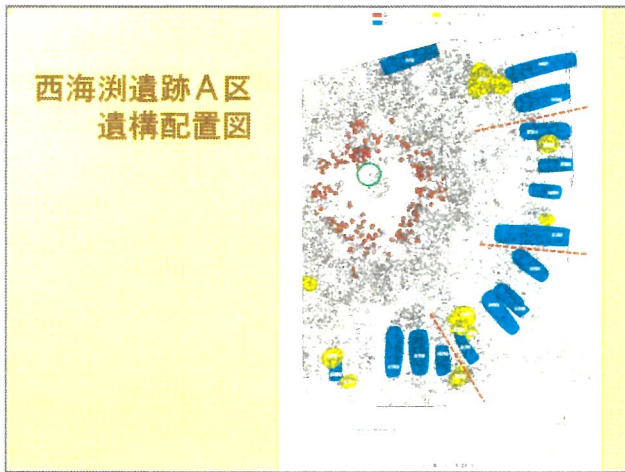
52



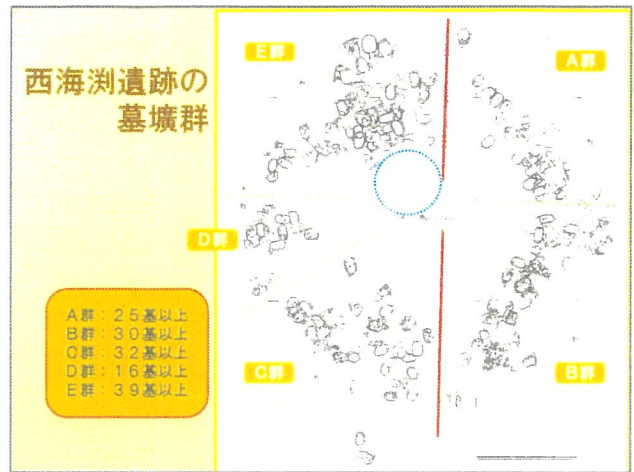
53



54



55



56



57



58



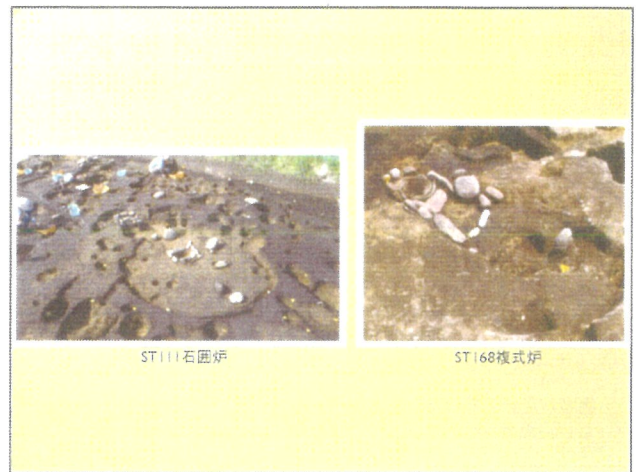
59



60



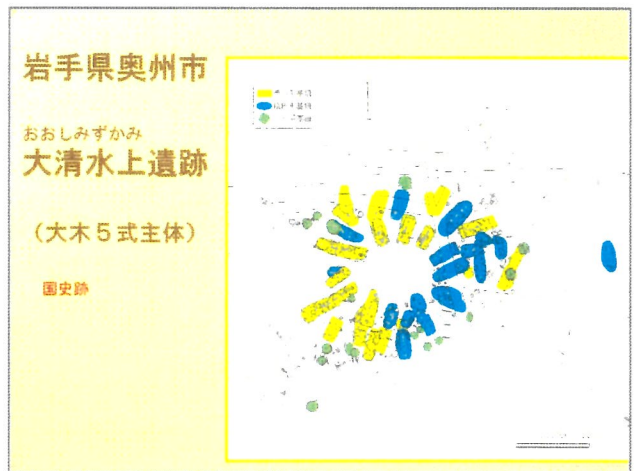
61



62



63



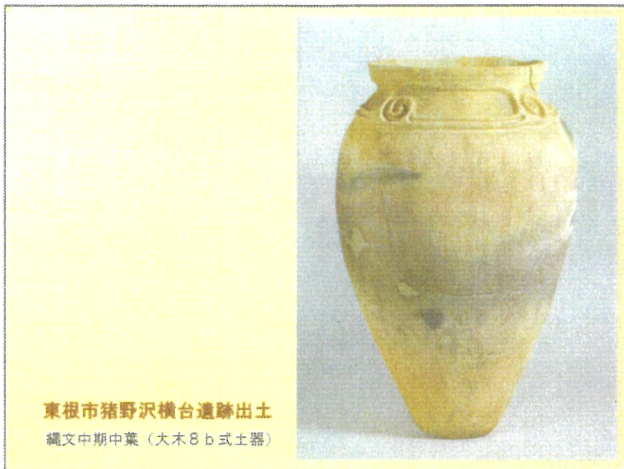
64



65



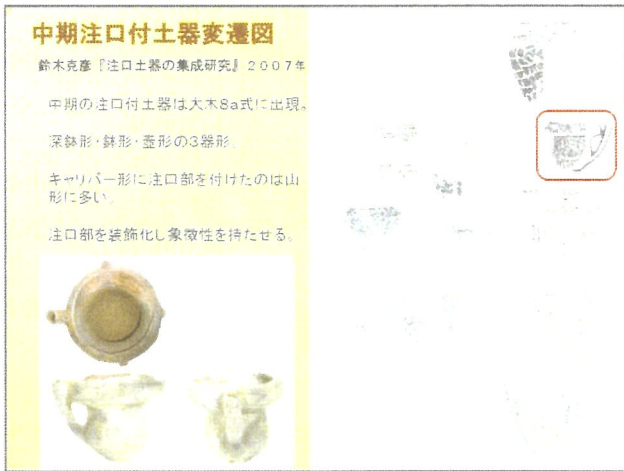
66



67



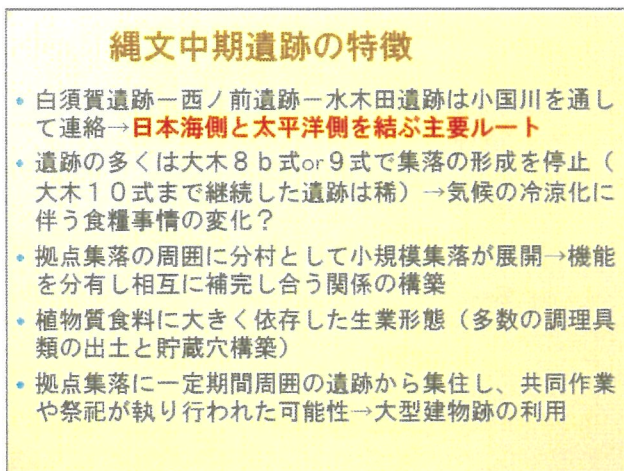
68



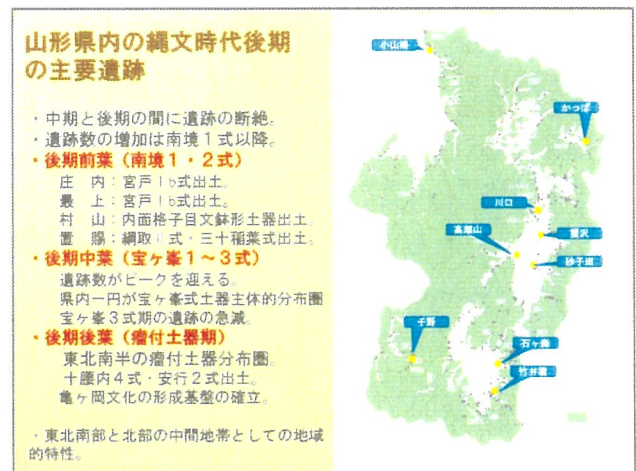
69



70



71



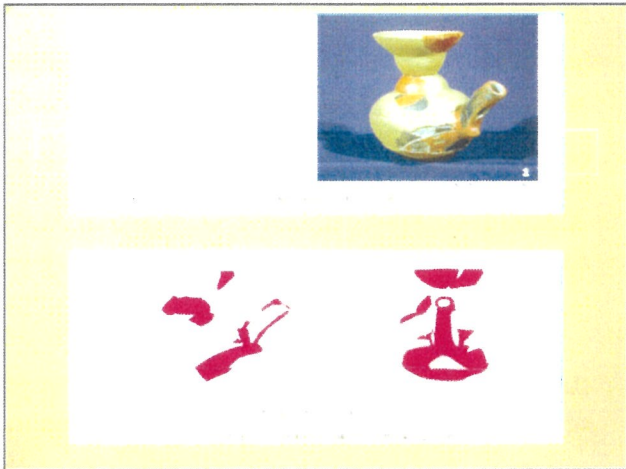
72



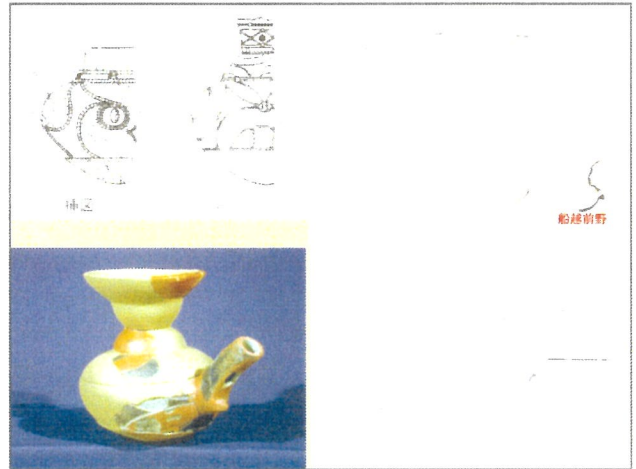
73



74



75



76



77



78

弘前市十腰内遺跡  
(竊付土器第II段階)

北斗市茂辺地遺跡  
(竊付土器第IV段階)

**国重要文化財の人面裝飾土器**

79

県指定文化財  
**環状注口土器 (岩手県一戸町付近出土品)**

たねやす 55世  
・松森胤保著『弄石餘談』(1990年県指定文化財一典籍一松森文庫)に掲載  
・明治維新前後の記録の著作  
・1958年指定

竊付土器第III段階

80

北東北の縄文後期後半の主要遺跡

○ : 岩手県一戸町

竊付土器第II段階

国指定重要文化財  
秋田県狐森遺跡出土の環状注口土器

81

遺跡数 477遺跡

山形県内の縄文晩期遺跡分布図

82

最上地方の縄文晩期の主要遺跡

83

- ・1915年発見
- ・1965年国指定重要文化財
- ・真室川町正源寺所蔵 (一時期東京国立博物館に寄託)
- ・縄文晩期末期 (大洞A2~A'式)
- ・内部は中空

**真室川町釜淵C遺跡出土の結髪土偶**

84



85



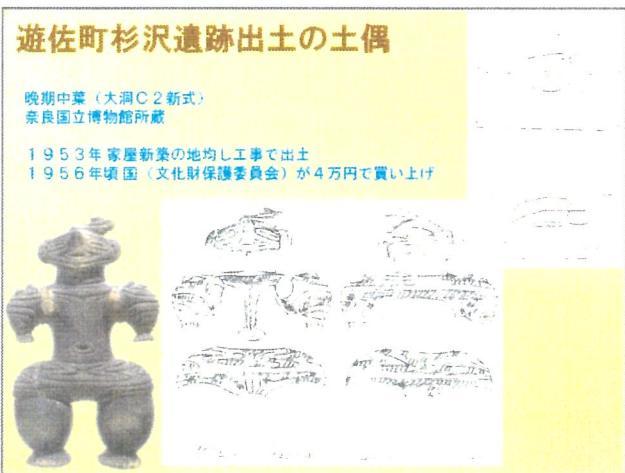
86



87



88



89



90

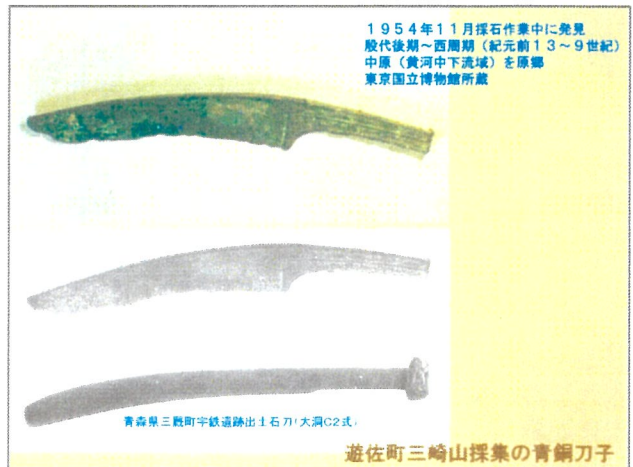
### 大洞C2式期の完形土偶



宮城県蔵王町飯沼沢遺跡

秋田県能代市杉沢台遺跡

91



1954年11月採石作業中に発見  
殷代後期～西周期（紀元前13～9世紀）  
中原（黄河中下流域）を原郷  
東京国立博物館所蔵

青森県三厩町宇鉄遺跡出土石刀/大洞C2式

遊佐町三崎山採集の青銅刀子

92

### まとめ

- 国指定の重要文化財・史跡（縄文時代）については、県の指定を経ないで国指定に至っている（近年は発掘調査報告書の刊行が前提）。
- 県指定文化財・史跡については、他県の事例から、国指定の重要文化財・史跡の候補になり得る例は少ないように思われる。
- 県指定文化財・史跡は、山形県内の考古学研究史の意義を有している（柏倉亮吉・加藤稔氏の調査遺跡・出土品が多数）。
- 今後指定される可能性がある資料について、その考古学上の意義を紹介した。
- 国史跡指定に至らず消滅した重要遺跡（西海淵遺跡）について、研究に堪える詳細な資料提示と指定文化財に向けての取り組みを提案した。

93